

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092100041		
法人名	医療法人社団親和会		
事業所名	グループホームつつじの丘		
所在地	福岡県嘉麻市牛隈2510番地98 (電話) 0948-57-4150		
自己評価作成日	平成 29 年 1 月 31 日	評価結果確定日	平成 29 年 3 月 27 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様とご家族様の思いを大切にし、安心して生活が続けられるように優しく見守り、入居者様が自分らしく過ごしていけるような支援を心掛けている。地域との関わりを大切にし、ボランティア実習の受け入れをしたり、学校行事に参加させていただいている。入居者様の居室はそれぞれがゆったりと過ごせるよう個性的な配置や飾り付けを行っている。ご家族様やご近所の方々が訪問されても気兼ねせずにゆったりくつろげるような気配りを行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 2 月 27 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者、家族、管理者、職員との強い絆を感じさせる事業所である。家族が気持ちよく訪問出来、面会がほぼ毎日行われている。また、家族の協力による草刈り、屋根の掃除が行われている。管理者、職員共に介護に妥協を許さない姿勢が見られる。夜中の失禁に対してもお湯での清拭をその都度行っている。利用者の立場を自らと置きかえての介護実践がみられる。利用者、家族、事業所が三位一体の協働作業で利用者の余生を、その人らしく幸せに送れるようにサポートしている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方々のケアということを踏まえた理念を掲げ、職員の目に留まる場所に掲示し意識を高めて入居者との関わりを持つように心掛けている。	20分程度の朝礼を通して、理念にうたわれている利用者、家族がその人らしい人生を地域との交流をふまえて如何に実現するか、現場でどの様に取り組んでいくかを管理者、職員が一丸となって日々検討を加えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校行事に参加したり、中学校の職場体験の受け入れも積極的に行っている。地区や組内の行事への協力も行っている。	地域の自治会に加入し、道路愛護、清掃活動にも参加している。近隣の小学校での七夕集会への参加は利用者の楽しみの一つになっている。中学校の職場体験、短大の実習の受け入れ、農家からのおすそわけ、小学生が日常的に遊びに来るなど地域との付き合いは緊密である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等の参加を通じて、認知症入居者と接して頂くことで、認知症の方への理解を深めて頂いている。また、併設しているデイサービスの利用者等で、ご自宅で認知症の方を介護されているご家族のお困りごとにもアドバイスや支援を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	嘉麻市担当者、地域住民、民生委員、家族の方々に参加して頂き、年間行事や月ごとの行事の報告を行ったり、その時々の問題点を話し合ったり、参加して頂いた皆様の意見も参考にしてサービスの向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1度開催されている。利用者や家族も参加している。事業所の事故等について積極的に報告している。外出は必要な支援に応じて職員を増やす様に提言があり、個別対応を行っている。事例として、職員の支援のもと、時候の良い頃に利用者の一泊帰宅をした。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者との連絡を行ったり、運営推進会議への参加をして頂くなど、ホームの運営の相談や事故の報告等を行い、協力関係が築けるように取り組んでいる。	行政への報告、相談、連絡は頻繁に行われている。近々の事例として、インフルエンザや料金の値上げについて、また生活保護、後見制度についての相談がなされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践を心がけているが、離ホームされる入居者もあり、生命の危険があったり、ベッドよりの転落の可能性が高い入居者に関しては、ご家族と十分に話し合いを行ったうえで、やむを得ず玄関を施錠したり、ベッド柵を使うこともある。その際はプランを立て定期的に見直しを行っている。	日中居室の施錠はされていない。利用者の要介護レベルが高まっている為、家族との話し合いで“身体拘束に関する同意書”を交わして玄関等の施錠を行っている。また、外部研修には参加しているが内部研修、伝達研修が十分とは言えない。	身体拘束による弊害を職員が正しく理解し、実践しご家族にも理解いただくよう取り組む必要があります。玄関の施錠をせずに安全に過ごせるケアの工夫をしてほしい。研修の充実もお願いしたい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に虐待が見過ごされないよう注意している。入居者の尊厳を守ると言うことも、いつも念頭に置いて行動している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修の参加、参加した職員によるホーム内での勉強会を行い必要性や活用方法の理解に努めている。また、入居者によっては制度利用が必要ではと思える方もおり、どのように支援していくべきかが今後の課題となっている。	権利擁護に関する制度の理解と活用については、利用者家族の契約時に説明がなされている。今年度は三月に外部研修が予定されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者やご家族に対し契約書および重要事項の内容のご理解と納得をして頂けるように丁寧に説明を行うように心掛けている。内容に疑問があったり、内容の変更時には再度説明を行って同意を頂くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や苦情の窓口を明記しており、玄関の棚に意見箱を設置している。またご家族との連絡ノートを各部屋に置き意見や要望を記入できるようにしている。	日頃から利用者、家族、管理者、職員の垣根はなく、何時でも何所でも意見交換ができる。以前住んでいた庭のみかんを収穫したり、土筆を利用者の希望で職員同伴で収穫に行ったりしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やホームカンファレンス等で職員の意見を聞き運営に反映させている。また職員個別に面談を行い個人的に意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。	管理者も支援に入っており、職員との意見交換は日常的に行われている。職員の個人的な悩み等も相談にのっており、職員の管理者への信頼度は高い。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがやりがいを持ち、必要とされている人材であるという思いで働くことができる職場の環境づくりや労働条件の整備や育児休業を取ったり、有給休暇を遠慮なく利用できる等の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については年齢や性別を理由に採用対象から排除しないようにしている。また職員の生活背景を考慮して勤務シフトに反映したり、個人の能力が活かせるよう資格修得や研修への参加希望にもできる限り応じることができる体制づくりを行っている。	職員構成は、男性4名、女性12名。年齢構成は25歳から66歳である。定年は60歳であるが、定年後も希望により延長して働くことができる。有給の取得、産休、育休も取られている。資格取得者への手当もなされている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権の尊重は理念として掲げて共同空間に掲示し何時でも目につくようにしている。職員は入居者、家族の思いを大切にしている。その方らしい生活が行えるように支援をする努力を行っている。	外部研修への参加は行われているが、伝達研修、内部研修がなされていない。	市町村で行われる人権啓発活動や研修に職員を積極的に出し、外部研修受講後の伝達研修、内部研修が適時行われることを希望します。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量に応じた研修を受ける機会を法人内外で確保しており、できる限り受講をと思っはいるが、人員の確保ができない事もあり、研修を積極的に受けたり、ホーム内での研修が十分行えないということもあった。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入や嘉麻市主催の地域連携協議会への参加など積極的に取り組んでいる。近隣のグループホームの訪問や情報交換も行い質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたっては本人、家族に施設見学をして頂いたり、自宅や病院等に出向き不安や要望に耳を傾けコミュニケーションを図っている。入院先や在宅のケアマネジャーとの連携も十分に図り、個人情報保護に留意しながら情報収集を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っていることや不安に思っていることなどの、要望に耳を傾けてコミュニケーションが図れるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族やそれまでに関わりのあったサービス機関より、個人情報に考慮して情報収集を行い、アセスメントにつなげ、より良い支援につながるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を考えて、できることはやらせてあげたいという気持ちを職員が持っているが、安全面や衛生面のことを考えるとやりたいこと全てをとという訳にはいかない現状がある。そのため職員が主体で行う場面が増えている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えることができるように、ご家族にも協力して頂けることはお願いしている。また、いつでも面会に来ていただける環境作りやご家族と一緒に外出、外泊ができる様に支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来易いように環境を整えたり、ご本人や家族の希望や意向があれば馴染みの場所にドライブに行くなどしている。	受診やショッピングの際に、馴染みの呉服屋への立ち寄りや自宅のミカン取り、昔なじみと顔を合わせて昔話をする場面などの設定を行い、地域との関係継続の支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者は日中はリビングに出て体操やレクリエーションを行ったり、歌をうたうなどして過ごしている。入居者が孤立せずに他者と関わりを持てるように職員が誘導している。食事やソファでくつろいでいる時は入居者同士で会話をしたり、職員が会話の橋渡しを行うなどの支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも本人、家族の悩みを聞いたり、長期の入院をされている方にはお見舞いに行くなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望や思いをケアプランに取り入れ、それに沿ったケアを行えるよう職員が心がけている。	利用者と管理者、職員との疑似家族としての一体感が感じられ、しぐさ、眼の動き等で意思を確認している。利用者が家で過ごしたいとの希望を実現するため、配偶者の介護力等を検討して、事業所が支援体制を組み自宅での生活を週末に行ったりしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの介護保険サービス利用の状況、入居までの生活環境等色々な方面より情報収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察し現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に一度は介護計画の評価を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行っている。また入居者の状態の変化が著しい場合にはその都度スタッフ、家族とモニタリングを行ってケアプランの見直しができるように心がけている。	介護計画の作成は、利用者、家族の思いをベースにし、利用者家族、ケアマネ、管理者、職員等の関係者が出席するサービス担当者会議で策定されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の状況や病状等を介護記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行って介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況を考慮し面会は早朝や夜間でも快く応じるようにしている。隣接のデイサービスとの交流も行うなどしており、入居者の楽しみにつながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	嘉麻市の介護相談員の訪問を定期的にお願ひし入居者との会話の機会を持っていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診または往診をお願いしている。	利用者の受診状況は、入所前からのかかりつけ医とホームの提携医(協力医療機関)の構成比が半々となっている。その他、定期受診、随時の他科受診、訪問看護の健康チェック・往診・訪問歯科診療等への取り組みが行われている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師や往診対応の看護師、外来担当の看護師と連携をとり入居者の健康管理を行っている。少しの体調変化でも相談しやすい連携が取れており、相談して受診が必要であるとアドバイスされればすぐに受診ができる体制も整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は入院先の看護師やソーシャルワーカーと連携をとり情報交換や相談に努めている。また、面会にも行き情報収集を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行いできるようにしている。	重度化や終末期に向けたあり方についてホームの対応方針が明文化されている。入所時に、ホームが出来る支援方法について利用者・家族に説明が行われている。利用者の重度化への過程で適宜、利用者、家族及びやホーム関係者、医療関係者と話し合っ支援方法を検討し、情報の共有をはかる取り組みが行われている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けた職員もおり、急変時の対応も掲示している。看護師資格を持つ職員が日頃から急変時のシミュレーション講習を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行い職員が対応できるようにしている。	避難訓練は、年2回消防署の協力のうえ、隣接のデイサービスセンターと連携し実施されている。地域住民への参加を呼び掛けているが、不参加である。今後、参加の可能性の高い人選を行っていく方針である。非常食・飲料水及び備品等は事業所内に確保されている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が人生の先輩であることを念頭に置き、人格を尊重した言葉かけやケアを行うように日頃から気をつけている。	管理者と職員は、あからさまな介護、誘導、声かけ等、利用者の尊厳に関わる支援については特段の注意・配慮を行っている。個人情報の漏洩や守秘義務厳守等についても個人情報保護マニュアルに基づき、利用者、家族の同意のもと適切な対応がとられている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらが良いか希望を聞いたり好きか嫌いかなどを自己決定できる場合は本人に選んで頂いている。自己決定が困難な方は表情や行動から思いをくみ取る努力を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調やその日の気分を確認しながらできる限り希望に沿った暮らしができるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は自分のお気に入りの服や家族が買ってきた服を着て頂き、夜は寝衣を着用して頂いている。また外出時は季節を考慮しそれぞれに合ったおしゃれをして出掛けられるように支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態を見ながら調理の準備や盛り付けなどを一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。	旬の食材を中心に栄養バランスにも配慮した献立、行事食などが提供されている。利用者と職員が共に食卓を囲む和やかな食事風景が展開されている。職員は談笑しながらさり気なく支援を行なっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をした食事を提供しており、食事量、水分量のチェックを行い水分量の少ない利用者やその時々々の健康状態に応じて水分の補給を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、一人で上手くできない入居者には磨きなおし等の介助を行っている。歯科の往診も対応して頂いており歯科医師からのアドバイスも気軽に受けることができるように配慮している		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し声掛けや誘導をして、できる限りトイレでの排泄ができるように支援を行っている。	職員は、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげない排泄誘導を行っている。また、紙パンツから布パンツに改善した事例もある。失禁時においても、きめ細かに清拭がなされている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く取り入れたり、体操や散歩を行うなど便秘の予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージを行うなど工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	二日に一回で入浴を行っている。毎日入浴を希望する方や入浴を拒む入居者もあり、全て希望どおりとは行かないが爽快に入浴できるようにと心掛けている。また、失禁等があればその都度必要に応じて入浴やシャワー浴を行うなど対応している	入浴は、原則隔日ごとになっているが、24時間いつでも入浴可能な体制がとられている。時間帯は午後の気温が安定した時間帯としているが、利用者の都合でその他の時間や夜間等でも対応している。季節の柚子湯、菖蒲湯、入浴剤等を活用し、入浴を楽しめる支援に努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて自由に休息ができるようにしている。夜間眠れないときは会話をしたり、傍らに寄り添うなどして安心して頂くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に作用や副作用、服薬方法等が記載されているので、各自カルテに綴っていつでも確認できるようにしている。また、頓服や臨時薬を服用する際は状態の変化の確認に努めている。場合によっては管理薬剤師への相談も行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにケアプランに反映している。施設内でのレクリエーションや楽しみごと、散歩、外出等で気分転換が図れるように支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人での外出を希望される入居者が居ても安全面を考えると希望に添えないこともある。外出したいと希望されたときに職員が忙しい状況であれば、どうしても後からということになるのが現状。できる限り時間を作って安全に外出ができるようにとの努力は行っている。	ホーム周辺の散歩が日課となっている。ウッドデッキでの日光浴や催し物等、天気の良い時を見計らって、なるべく戸外で過ごす支援に努めている。外食、ドライブ、道の駅、買い物などその他季節に応じた行事も多彩で、家族の協力を得ながら外出する機会も多い。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買物に出掛けた時には買物が行えるよう支援を行っている。必要なお金は家族の了承のうえでホームでの立替を行っており、入居者が自分でお金を管理することという事は行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことが可能で手紙を出したいという意向があれば援助を行っている。入居者宛に手紙がくれば渡して返事を書くこともあり、家族からの電話は本人につないで自由に話しをできるようにしている。希望があればホームの電話を使用してお家族にかけることもある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に絵や入居者の作成した手工芸作品を飾ったり、季節感のあるものを配置するなどの工夫を行っている。施設の壁の配色もやわらかな色調にしている。採光や喚気にも考慮し空気清浄機の設置も行っている。	一日の大半を過ごすリビングは、日当たりも良く、過度の装飾もなく程よくノンビリと過ごせるような工夫がなされている。また、利用者一人ひとりの居場所が大切にされ、落ち着いて過ごせるよう配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて自由に使えるようにしたり、テーブルや椅子の配置を考えて気の合う者同士が楽しく話せるようにしている。自分の落ち着ける居場所をそれぞれが持てるということや、移乗や移動が安全に行えるかどうかにも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室が個性に応じた空間になるよう、飾り付けや家族の写真、馴染みのものを飾るなどして、居心地よく過ごせるように工夫している。独居の方の中にはこれまで大切に供養してきた仏壇や位牌を持ち込んで手を合わせる習慣を継続している。また、安全面も考えて移乗や異動時に障害となるものが無いように環境整備を行っている。	居室は、日当たりも良く明るく落ち着いた雰囲気である。利用者一人ひとりの使い慣れた馴染みの家具や品物等が持ち込まれ、一人ひとりの生活習慣や家族の思いが反映された個性的な部屋作りがなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には名前を表示し、廊下周りを含めて手すりを設置して安全に歩行ができるように配慮している。また、居室入り口からホールが見渡せるようにしており、ホーム内はバリアフリーになっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
			○	③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が
			○	② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が
			○	② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【 I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症の方々のケアということを踏まえた理念を掲げ、職員の目に留まる場所に掲示し意識を高めて入居者との関わりを持つように心掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の学校行事に参加したり、中学校の職場体験の受け入れも積極的に行っている。地区や組内の行事への協力も行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事等の参加を通じて、認知症入居者と接して頂くことで、認知症の方への理解を深めて頂いている。また、併設しているデイサービスの利用者等で、ご自宅で認知症の方を介護されているご家族のお困りごとにもアドバイスや支援を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	嘉麻市担当者、地域住民、民生委員、家族の方々に参加して頂き、年間行事や月ごとの行事の報告を行ったり、その時々の問題点を話し合ったり、参加して頂いた皆様の意見も参考にサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より市の担当者との連絡を行ったり、運営推進会議への参加をして頂くなど、ホームの運営の相談や事故の報告等を行い、協力関係が築けるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	実践を心がけているが、離ホームされる入居者もあり、生命の危険があったり、ベッドよりの転落の可能性が高い入居者に関しては、ご家族と十分に話し合いを行ったうえで、やむを得ず玄関を施錠したり、ベッド柵を使うこともある。その際はプランを立て定期的に見直しを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者を中心に虐待が見過ごされないよう注意している。入居者の尊厳を守ると言うことも、いつも念頭に置いて行動している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修の参加、参加した職員によるホーム内での勉強会を行い必要性や活用方法の理解に努めている。また、入居者によっては制度利用が必要ではと思える方もおり、どのように支援していくべきかが今後の課題となっている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者やご家族に対し契約書および重要事項の内容のご理解と納得をして頂けるように丁寧に説明を行うように心掛けている。内容に疑問があったり、内容の変更時には再度説明を行って同意を頂くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に意見や苦情の窓口を明記しており、玄関の棚に意見箱を設置している。またご家族との連絡ノートを各部屋に置き意見や要望を記入できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やホームカンファレンス等で職員の意見を聞き運営に反映させている。また職員個別に面談を行い個人的に意見を言いやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりがやりがいを持ち、必要とされている人材であるという思いで働くことができる職場の環境づくりや労働条件の整備や育児休業を取ったり、有給休暇を遠慮なく利用できる等の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については年齢や性別を理由に採用対象から排除しないようにしている。また職員の生活背景を考慮して勤務シフトに反映したり、個人の能力を活かせるよう資格修得や研修への参加希望にもできる限り応じることができる体制づくりを行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者に対する人権の尊重は理念として掲げて共同空間に掲示し何時でも目につくようにしている。職員は入居者、家族の思いを大切にしてその方らしい生活が行えるように支援をする努力を行っている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の個々の力量に応じた研修を受ける機会を法人内外で確保しており、できる限り受講をと思っはいるが、人員の確保ができない事もあり、研修を積極的に受けたり、ホーム内での研修が十分行えないということもあった。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入や嘉麻市主催の地域連携協議会への参加など積極的に取り組んでいる。近隣のグループホームの訪問や情報交換も行い質の向上に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたっては本人、家族に施設見学をして頂いたり、自宅や病院等に出向き不安や要望に耳を傾けコミュニケーションを図っている。入院先や在宅のケアマネージャーとの連携も十分に図り、個人情報の保護に留意しながら情報収集を行っている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談時より本人、家族の困っていることや不安に思っていることなどの、要望に耳を傾けてコミュニケーションが図れるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族やそれまでに関わりのあったサービス機関より、個人情報に考慮して情報収集を行い、アセスメントにつなげ、より良い支援につながるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を考えて、できることはやらせてあげたいという気持ち職員が持っているが、安全面や衛生面のことを考えるとやりたいこと全てをとという訳にはいかない現状がある。そのため職員が主体で行う場面が増えている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共に本人を支えることができるように、ご家族にも協力して頂けることはお願いしている。また、いつでも面会に来ていただける環境作りやご家族と一緒に外出、外泊ができる様に支援を行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来易いように環境を整えたり、ご本人や家族の希望や意向があれば馴染みの場所にドライブに行くなどしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者は日中はリビングに出て体操やレクレーションを行ったり、歌をうたうなどして過ごしている。入居者が孤立せずに他者と関わりを持てるように職員が誘導している。食事やソファでくつろいでいる時は入居者同士で会話をしたり、職員が会話の橋渡しを行うなどの支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも本人、家族の悩みを聞いたり、長期の入院をされている方にはお見舞いに行くなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人や家族の希望や思いをケアプランに取り入れ、それに沿ったケアを行えるよう職員が心がけている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの介護保険サービス利用の状況、入居までの生活環境等色々な方面より情報収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の介護記録や申し送りにより一人ひとりの心身状態、一日の生活状況を観察し現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3カ月に一度は介護計画の評価を行い、必要に応じてケアプランの見直しを行っている。また入居者の状態の変化が著しい場合にはその都度スタッフ、家族とモニタリングを行ってケアプランの見直しができるように心がけている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の状況や病状等を介護記録に記入し情報を共有して申し送りや意見交換を行って介護計画の見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況を考慮し面会は早朝や夜間でも快く応じるようにしている。隣接のデイサービスとの交流も行うなどしており、入居者の楽しみにつながっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	嘉麻市の介護相談員の訪問を定期的にお願ひし入居者との会話の機会を持っていただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診または往診をお願いしている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を行っている看護師や往診対応の看護師、外来担当の看護師と連携をとり入居者の健康管理を行っている。少しの体調変化でも相談しやすい連携が取れており、相談して受診が必要であるとアドバイスされればすぐに受診ができる体制も整えている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した際は入院先の看護師やソーシャルワーカーと連携をとり情報交換や相談に努めている。また、面会にも行き情報収集を行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に入所者の容態が重度化した場合における対応指針の説明を行いできるようにしている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受けた職員もおり、急変時の対応も掲示している。看護師資格を持つ職員が日頃から急変時のシュミレーション講習を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行い職員が対応できるようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者が人生の先輩であることを念頭に置き、人格を尊重した言葉かけやケアを行うように日頃から気をつけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でどちらが良いか希望を聞いたり好きか嫌いかなどを自己決定できる場合は本人に選んで頂いている。自己決定が困難な方は表情や行動から思いをくみ取る努力を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの中で一人ひとりの体調やその日の気分を確認しながらできる限り希望に沿った暮らしができるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中は自分のお気に入りの服や家族が買ってきた服を着て頂き、夜は寝衣を着用して頂いている。また外出時は季節を考慮しそれぞれに合ったおしゃれをして出掛けられるように支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の状態を見ながら調理の準備や盛り付けなどを一緒に行ったり、配膳や引き膳の手伝いをして頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算をした食事を提供しており、食事量、水分量のチェックを行い水分量の少ない利用者やその時々々の健康状態に応じて水分の補給を行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、一人で上手くできない入居者には磨きなおし等の介助を行っている。歯科の往診も対応して頂いており歯科医師からのアドバイスも気軽に受けられるように配慮している		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排尿パターンを把握し声掛けや誘導をして、できる限りトイレでの排泄ができるように支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く取り入れたり、体操や散歩を行うなど便秘の予防に取り組んでいる。トイレ時の腹部マッサージを行うなど工夫している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	二日に一回で入浴を行っている。毎日入浴を希望する方や入浴を拒む入居者もあり、全て希望どおりとは行かないが爽快に入浴ができるようにと心掛けている。また、失禁等があればその都度必要に応じて入浴やシャワー浴を行うなど対応している		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣に合わせて自由に休息ができるようにしている。夜間眠れないときは会話をしたり、傍らに寄り添うなどして安心して頂くようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋に作用や副作用、服薬方法等が記載されているので、各自カルテに綴っていつでも確認できるようにしている。また、頓服や臨時薬を服用する際は状態の変化の確認に努めている。場合によっては管理薬剤師への相談も行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにケアプランに反映している。施設内でのレクレーションや楽しみごと、散歩、外出等で気分転換が図れるように支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人での外出を希望される入居者が居ても安全面を考えると希望に添えないこともある。外出したいと希望されたときに職員が忙しい状況であれば、どうしても後からということになるのが現状。できる限り時間を作って安全に外出ができるようにとの努力は行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事で買物に出掛けた時には買物が行えるよう支援を行っている。必要なお金は家族の了承のうえでホームでの立替を行っており、入居者が自分でお金を管理することというは行っていない。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字を書くことが可能で手紙を出したいという意向があれば援助を行っている。入居者宛に手紙がくれば渡して返事を書くこともあり、家族からの電話は本人につないで自由に話しをできるようにしている。希望があればホームの電話を使用してご家族にかけられることもある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁に絵や入居者の作成した手工芸作品を飾ったり、季節感のあるものを配置するなどの工夫を行っている。施設の壁の配色もやわらかな色調にしている。採光や換気にも考慮し空気清浄機の設置も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて自由に使えるようにしたり、テーブルや椅子の配置を考えて気の合う者同士が楽しく話せるようにしている。自分の落ち着ける居場所をそれぞれが持つということや、移乗や移動が安全に行えるかどうかにも配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室が個性に応じた空間になるよう、飾り付けや家族の写真、馴染みのものを飾るなどして、居心地よく過ごせるように工夫している。独居の方の中にはこれまで大切に供養してきた仏壇や位牌を持ち込んで手を合わせる習慣を継続している。また、安全面も考えて移乗や異動時に障害となるものが無いように環境整備を行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室には名前を表示し、廊下周りを含めて手すりを設置して安全に歩行ができるように配慮している。また、居室入り口からホールが見渡せるようにしており、ホーム内はバリアフリーになっている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない